

2 認知症の要介護者の方を地域で支える (横浜市の取組み～第4期介護保険事業計画)

9

「認知症高齢者の日常生活自立度」Ⅱ以上の高齢者の推計

○ 認知症高齢者数については、平成22(2010)年では208万人、平成37(2025)年では323万人と推計されており、約1.6倍に増加することが見込まれている。

(単位:万人)

将来推計 (年)	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045
日常生活 自立度 Ⅱ以上	208	250	289	323	353	376	385	378
	7.2	7.6	8.4	9.3	10.2	10.7	10.6	10.4

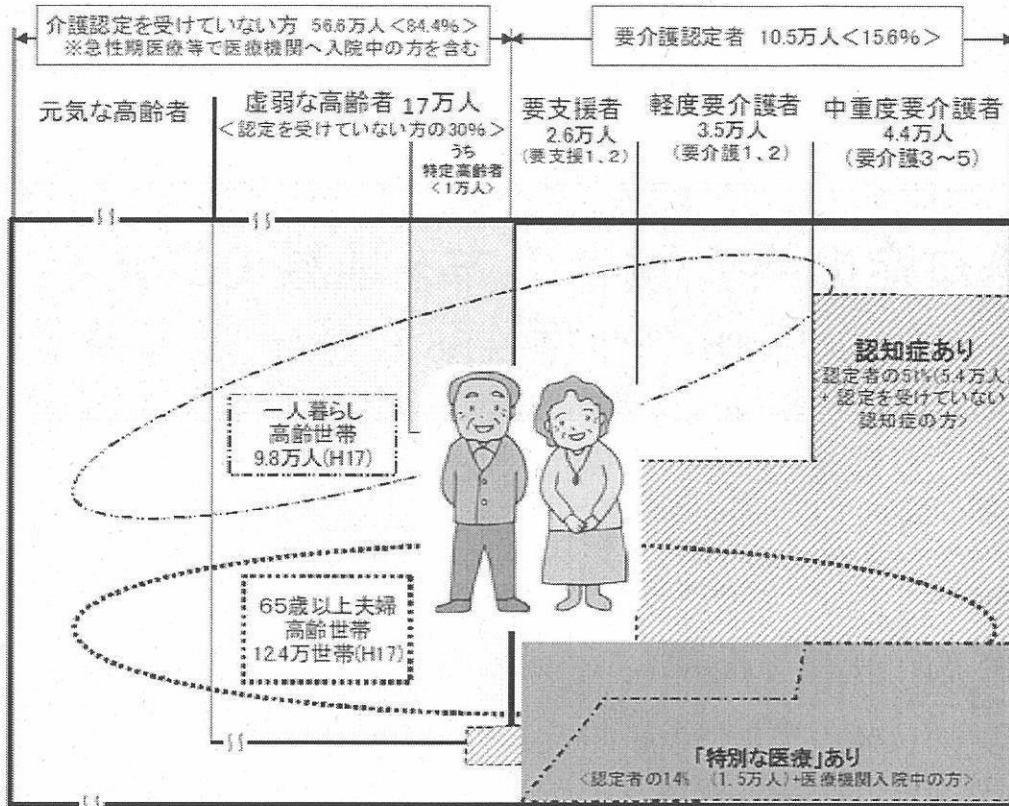
※1 日常生活自立度Ⅱとは、日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意すれば自立できる状態。

※2 下段は65歳以上の人口比(%)

(平成15年6月 高齢者介護研究会報告書より)

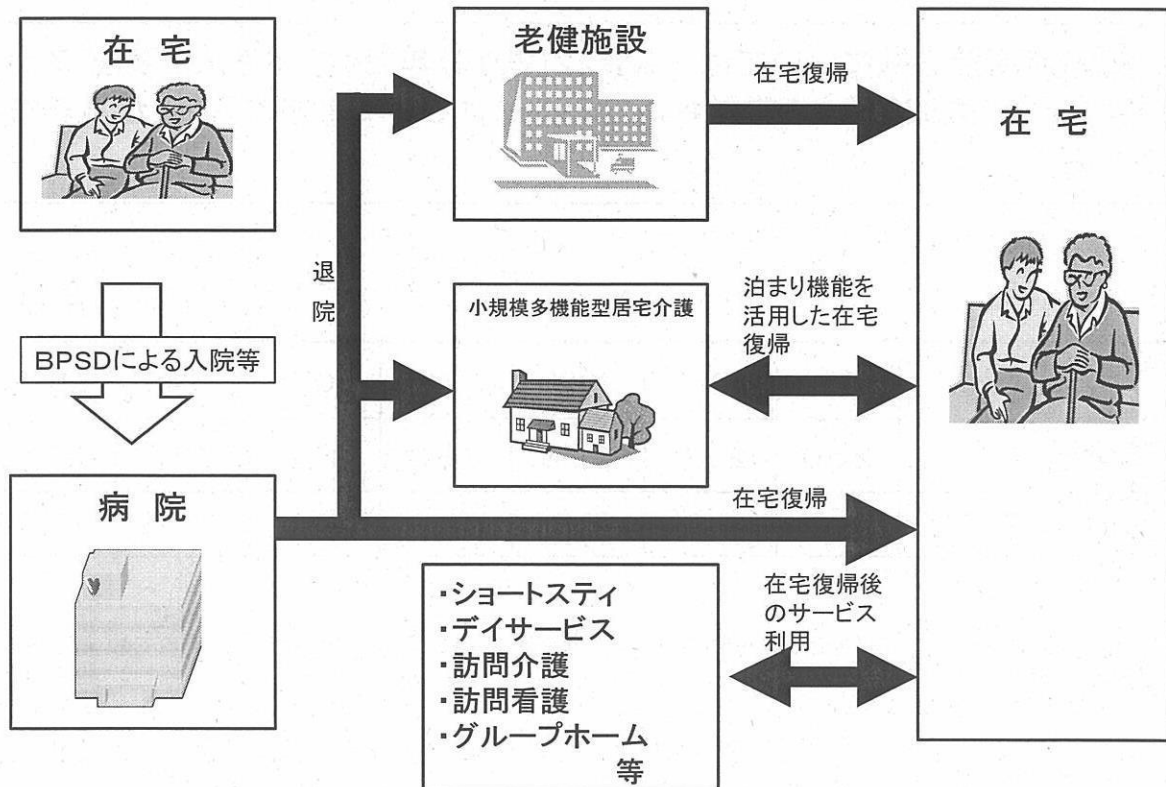
横浜市の高齢者 67.1万人

平成20年4月現在



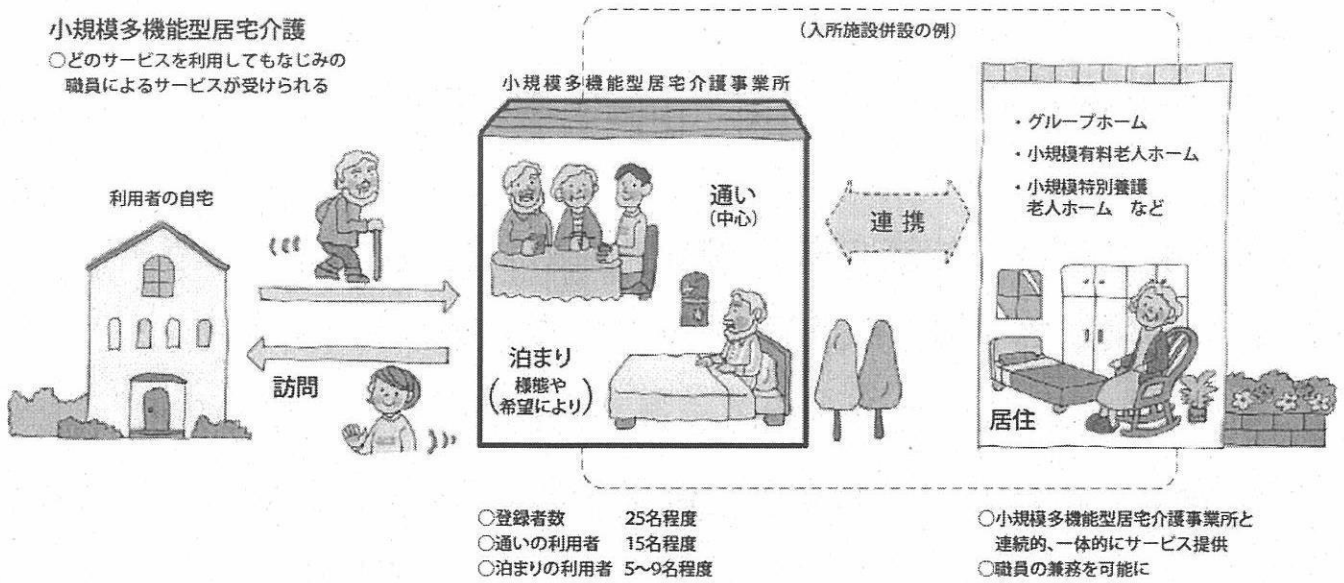
※ 特別な医療：経管栄養、酸素療法など

介護分野における支援の一例



小規模多機能型居宅介護

- どのサービスを利用してもしなじみの職員によるサービスが受けられる



小規模多機能型居宅介護の整備目標及び見込量

		第3期の実績			第4期計画			
		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
小規模多機能型居宅介護	か所数(か所)	7	27	45	62	79	96	
	定員数(人)	168	649	999	1,424	1,849	2,274	
	介護	利用者数(人/月)	38	200	800	1,200	1,500	2,000
	予防	利用者数(人/月)	3	15	60	90	120	150

注:日常生活圏域ごとの見込量については、203~206ページを参照

認知症対応型共同生活介護(認知症高齢者グループホーム)

- 認知症高齢者を対象として、共同生活(5~9人)を通じ、入浴、排泄、食事等の日常生活上の世話及び機能訓練を行います。
- 認知症高齢者グループホームは、第2~3期計画期間に急速に事業所が増加し、総量としては一定水準の整備量に達しています。第4期計画期間においては、未整備圏域への整備を促進し、平成26年度までに日常生活圏域ごとに1か所以上でのサービス提供を目指します。
- 重度の入居者を一定割合以上継続的に受け入れ、人員基準以上の配置によりサービス提供を行っているグループホームに対して助成を行います。
- 「地域密着型サービス運営委員会」での評価のほか、開設後6か月以上経過したグループホームに対する外部評価(第三者評価)の実施及び評価結果の公表を通じて、サービスの質の確保に努めます。

認知症対応型共同生活介護の整備目標

		第3期の実績			第4期計画			
		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
認知症高齢者グループホーム	か所数(か所)	227	251	268	275	282	289	
	定員数(人)	3,740	4,136	4,452	4,578	4,704	4,830	
	介護	利用者数(人/月)	2,640	3,413	3,800	4,200	4,300	4,500
	予防	利用者数(人/月)	5	6	5	5	6	6

注:日常生活圏域ごとの見込量については、203~206ページを参照